



道又秀悦議員

漁業対策

# 秋サケ漁不振の原因究明を

## 県に毎年要望している

**質問** 町内五漁協の過去の総生産額は、平成四年度は、約八十三億円、平成十六年度は、三十五億円であった。生産額が大幅に減少している要因は、秋サケ漁の不振が大きい。平成十七年度は魚価の回復が見られたものの、漁獲の伸び悩みや、エチゼンクラゲ被害により漁協経営を改善するには至っていない。秋サケの資源変動などの原因究明が急がれるが、国・県の取り組み状況はどうなっているか。

**沼崎町長** 秋サケの回復資源は、平成八年度七万トンをピークに減少し、平成十七年度も三年連続の三万ト台前半で推移している。本町では毎年、県に対して資源回復の要望を出しており、県は平成十七年度の試験研究テーマに、沿岸移動分布の把握、動物プランクトンの把握、幼魚の北上経路の推定などに取り組んでいる。国の独立行政法人さけ・ます資源管理センターでは、耳石による稚魚期の成長・移動・減耗に関する調査を進めている。なお、国、県における研究の進捗については、明確な結論を出すまでには至っていない状況にある。

### 林業行政

## 魅力ある林業の振興策は

## シイタケ生産拡大に努める

**質問** 町内の林業は、輸入木材により国産材の価格が低迷し、間伐などの保育作業を行う林家が減少している。このような状況の中、シイタケはこの地方に合った特産林産物であることか

ら、魅力ある林業を振興するため「道の駅」と連携し生産拡大とブランド化に向け取り組むとしている。生産拡大とブランド化に向けた取り組みは、どのような内容か。

**沼崎町長** 県が進める「いわて宮古・下閉伊乾しいたけブランド化連絡会議」と緊密な連携を図りながら「ブランド化」に努める。また、道の駅への「のほり」の提供など、地道な取り組みを継続する。生産拡大に向けては、乾シイタケの生産を増やすため、生産者が一本でも多く植菌し、気象に左右されない水の確保などが重要となる。県が進める「いわて乾しいたけ生産施設整備事業」を活用して、乾シイタケの生産拡大に努める。

### 町の考えを聞く



品評会で数々の賞を受賞するなど優れたシイタケが生産されています（荒川のシイタケ生産農家）